

2005年7月8日

各 位

双 日 株 式 会 社

双日、協和合金と組んで欧州に自動車部品の販売会社を設立
～技術的優位性を持つシンクロナイザーの拡販を図る～

双日株式会社は、自動車のシンクロナイザー技術で世界的な技術優位性を持つ協和合金株式会社（本社：横浜市金沢区鳥浜町、代表者：高島眞澄）と共同でフランス・パリ市に販売会社のキョーワ・シンクロ・テクノロジー・ヨーロッパ社（Kyowa Synchro Technology Europe S.A.S./KSTE 社、代表者：上野敏郎）を設立します。KSTE 社の資本金は40万ユーロ（約5400万円）で、双日が51%、協和合金が49%を出資します。

協和合金は、自動車のマニュアルトランスミッション（手動変速機）で使用されるシンクロナイザーの技術において日本・中国・韓国・アメリカ・イギリス・イタリア・ドイツ・フランスで特許を持っており、欧州の大手自動車メーカー向けに独占的に販売を行うことができます。協和合金が優位性を持つシンクロナイザーシステムによって、高性能化、原価低減および軽量化を図ることが可能となり、今秋から欧州の最大手自動車メーカーであるフランスのルノー社向けに部品の供給を開始致します。ルノー社の年間車両生産台数250万台に対し、2年後にはその7割強となる180万台のトランスミッション（変速機）に供給部品が搭載される見込みであり、その後もプジョーシトロエン社を始めとする欧州各社への拡販を予定しています。

欧州では乗用車の約80%がマニュアルトランスミッションであり、日本などに比べてその比率が高いのが特徴です。欧州でのシンクロナイザー市場は年間1000万台の規模であり、高機能でコストパフォーマンスの高いシンクロナイザーへの要望が強く、これらに特徴を有する KSTE 社の製品は中長期的に増加する見込みです。

KSTE 社の売上は、初年度約10億円、3年後に約30億円を予定しています。



シンクロナイザー

<シンクロナイザーについて>

変速機は、車が必要とする駆動力とエンジンの出力特性の間を取り持っています。このため、走行条件に応じて常に適切な変速比でエンジンのトルクを車輪に伝達しなければなりません。変速比は歯車で得られますが、手動変速機では1速から2速などへの変速をスムーズに行うために必要不可欠なのがシンクロナイザーです。つまり、異なる回転数で回転している軸とギヤとをシンクロナイズさせてから、両者（多くはギヤとスリーブ）をスムーズに噛み合わせる役目を果たしています。すなわち、シンクロナイズとは回転数の違いをなくする作用を言います。シンクロナイザーは一種のクラッチであり、通常は円錐摩擦を利用して異なる回転数で回転しているもの同士をシンクロナイズさせます。シンクロナイザーは、「シンクロナイズする」という重要な機能を有し、しかも耐久性や操作性を満足させなければなりません。円錐摩擦に耐えうる摩擦材料の選択、より小さい荷重（操作力）でより速くシンクロナイズさせるメカニズムの設計。これらが相まって「よいシンクロ」「コストパフォーマンスの高いシンクロ」が得られます。

以上

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03-5520-3185